復活節第４主日円山教会集会祭儀の分かち合い

そのとき、イエスは言われた。「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。（狼は羊を奪い、また追い散らす。）彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。わたしは良い羊飼い　である。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる。だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、わたしが　父から受けた掟である。」（ヨハネ１０章１１節～１６節）

おはようございます。今日の福音について３分間の分かち合いの奉仕をさせて頂く札幌聖心女子学院チャプレン、聖心会の田口でございます。　いつも札幌修道院がお世話になっているご恩返しに、今日は東京からシスター鈴木秀子が来札し、集会祭儀の後、お話の奉仕をさせていただきます。

聖書では、神は羊飼いにたとえられ、イエスと私たちとのかかわりは、よく羊飼いと羊の関係にたとえられています。どうしてでしょうか。

羊は、ただひたすら、草を食べることだけを求めて、目の前しか見ないので、いつしか崖の中腹で途絶えている危険な小道で進むことも戻ることもできず、立往生することも多いと言われています。その鳴き声を聞いて、羊飼いは命の危険を冒して救い出し、肩にせおって安全な場所に連れていきます。羊飼いにとって、羊に起こることは「他人ごと」でなく、「自分ごと」です。常に羊に寄り添い、献身的に危険から救い出すその姿に、神の想いが現れます。

また、羊飼いは命をかけて、猛獣から羊を守り、救い出します。預言者アモスは獅子（ライオン）に食べられそうになっている羊を、その口から救い出す羊飼いの様子を、「羊飼いが獅子の口から２本の後足、あるいは片耳を取り戻すように」（アモス３章１２節）と、とてもリアルに描きます。命をかけて猛獣の口から、絶体絶命の羊を救い出す羊飼いの姿は、イエスの姿に重なります。

草を求める羊のように、日常の中で私たちも、認められ、評価されることを求めて、満たされない想いでイライラしたり、虚しさを感じて、立往生することがあるのではないでしょうか。私にも覚えがあります。「こんなに良い教育をしているのに理解してもらえない。」「こんなに一生懸命やっているのに認めてもらえない。」など。

あるいは、猛獣にかみ殺される寸前の羊のように怒りを感じ、攻撃心にとらわれて、自分の心の猛獣に飲み込まれそうになることもあるかもしれません。

そんな状況におちいると、人間はとても面倒くさい存在になります。周囲も、その人を心にかけていないなら、逃げ出してしまうかもしれません。

しかし、イエスは「善い羊飼い」です。私たちの叫びを「自分ごと」として受け止め、寄り添ってくださいます。そして、ご自身の十字架上での叫びを、わたしたちの叫びと重ねてくださるのです。

その時、私たちの目は開き、気づきます。「私は一人ではなかった」と。私の人生で起こることは全て「善い羊飼い」であるイエスの関心事であり、彼にとって「自分ごと」であったのだと。

誰も手の届かないところで、もがいているこの私に届くために、イエスは、一番深い虚無の中までおりていかれたのです。

善い羊飼いは、まさにご自身の命を懸けて愚かな羊を救ってくださいました。この方がいらっしゃらなければ、私たちは危険にさらされます。

この方に、日常の中でいつも気づき、出逢うことができますように祈り合いましょう。ありがとうございました。

Chúng ta hãy ý thức về sự hiện diện của Chúa Giêsu trong cuộc sống hàng ngày của chúng ta. Cảm ơn bạn.